

薬研堀（七味唐辛子）

近隣
散策



写真1 「やげん堀 七味唐辛子本舗」の七味唐辛子、担ぎ箱、薬研

七味唐辛子は、その発祥の地に因んで「薬研堀」ともいわれる。

薬研堀は徳川幕府の米蔵に荷を積み下ろすために作られた、隅田川と繋がっていた堀で、現在の東京都中央区東日本橋1丁目から2丁目にかけて存在していた。1625（寛永2）年、薬研堀端に中島徳右衛門が薬種商を開業し、漢方薬をベースに生薬を組み合わせて七味唐辛子を作り出し江戸中に広めた。七味唐辛子は薬効を期待して寺社の門前で販売されることが多く、やがて江戸の食文化の伝播と共に日本全国に広まっていくこととなった。

薬研堀は1903（明治36）年には市区改正による公園整備のため、完全に埋め立てられた。1947（昭和22）年に「中央区日本橋薬研堀町」となったが、1971（昭和46）年に住居表示が変更され、周辺の町と合わせて「東日本橋」となり、「薬研堀」の地名も消滅した。

現在は、浅草寺門前の「やげん堀 七味唐辛子本舗」（1625（寛永2）年創業）、清水寺参道の「七味家本舗」（1655（明暦元）年創業）、善光寺門前の「根元 八幡屋儀五郎」（1736（元文元）年創業）が長い歴史を持つ3大七味の老舗である。七味唐辛子の構成素材には厳密な定義はなく、青のりや紫蘇、しょうがを含むものもあり、各々に味や香り、色などに特徴がある。

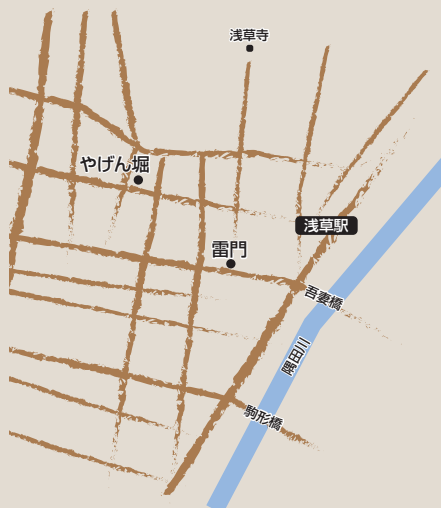


写真2 〔江戸切絵図〕日本橋北神田浜町絵図
左の堀が薬研堀